レース鳩の最高賞

令和8年度 日本エースピジョン賞



全国1位

24HL01905 “エースクイン905”
B ♀ 平田兄弟鳩舎作翔

合計入賞率 0.03407

26年埼群連盟 Rg	401K	1,758羽中	総合49位	入賞率	0.02787
埼群連盟 地区N	555K	1,324羽中	総合 2位	入賞率	0.00151
埼群連盟 桜花賞	922K	213羽中	総合優勝	入賞率	0.00469

生まれ

- 生年月日 …… 24年3月25日
- 順番 …… 1番仔

鳩体

- 大きさ……中
- 体型……普通
- 主翼の形状…キレあり
- 腰の厚み…普通
- 筋肉……普通
- ベスト時の重さ…普通
- 目……柿
- 重心……中間
- 性格……おとなしい

作出の意図

- 距離適性 …700K・900K
- 展開 ……分速1200~1300m台
- タイプ ……安定型

令和8年度内閣総理大臣賞・協会賞杯連盟1位

→20HL02322 BC 平田兄弟 作翔 20年秋Rg300K総合6位
全兄弟／16HL02000(下記)、地区N700K総合優勝
全姉の孫／**26年八郷・アベレージレース協会賞全国2位**
→13HL00371 BC 平田兄弟 作翔
13年秋200K総合2位、Rg400K総合2位 連盟AP賞1位
純ロードホフ系×プロス・ローザンの**“ド・ナショナル”**直系
→11HL09536 B 平田兄弟 作翔 12年地区N700K総合優勝
09HL03088(07年600K連盟優勝の直仔)×
08HL06528(ヤンセン系×デ・ズッター父子作)
→21HL07007 B 平田兄弟 作
→**20HL02319** B 平田兄弟 作翔
令和3年度日本エースピジョン賞全国4位
→16HL02000 B 平田兄弟作翔 300K総合優勝他
全弟／20HL02322(上記)
→18HL05406 BP 曽根秀之作 平田兄弟使翔
18年秋坂東三地区N400K総合3位・菊花賞連盟優勝
→13HA07374 BW 栁田雅幸作
09年JC総合9位(**“フィーネケ5000”**近親の直仔)の全弟×
13年東日本CH総合8位の異父姉
全兄弟／14年北関東ブロック連盟五地区GP総合3位
→09-111826 BC 曽根作 **“019”**の直系×AP賞
09年つくば・日本選手権500K3位、300K14位
→20HF06410 B 田谷日出男 作 平田兄弟 使翔
地区N600K総合7位、坂東三地区GP700K総合2位
→13HL10030 BC 矢嶋英夫 作
“カニバール”の曾孫×**“ワンダーボーイ”**の曾孫
→12HF06146 BC 田谷日出男 作翔 JC優勝・連盟7位
両親／渡辺 正作

令和8年度 日本エースピジョン賞全国1位 平田兄弟鳩舎(関東中部)

ピジョン賞全国1位（埼群連盟・関東中部連合会）

史上初となる「日本一のレース鳩」誕生！

弟は、80年代に合流。「平田兄弟鳩舎」として力を合わせ、管理に取り組むようになった。飯田和子氏らを通じて最新の輸入系もには「ゴールド賞」、02年には「日本優秀鳩舎賞」を受賞し、その名を全国にとどろかせた。そして21年には、レース鳩の最高賞「日賞を果たす。それから5年。その受賞鳩の血を引く1羽が、彼らにさらなる栄光をもたらした。孫鳩にあたる「24HL01905」が、では、01年の小室梅吉鳩舎（ニュー埼玉東部）以来となる快挙であり、群馬鳩界では史上初。ここに新たな歴史が刻まれた！

タイトル争いは年々激化！ ボーダーは2年連続7％台

東洋初のオリンピアード開催（81年）を実現するなど、日本鳩レース界の隆盛を支えた笹川良一会長。その辞任を受け、森田浩光氏が新会長に就任した92年に創設されたのが、「日本エースピジョン賞（以下、日本AP賞）」である。

76年の「内閣総理大臣賞」、78年の「笹川賞（現・会長賞）」に続く、第3のエースピジョン賞だ。対象は、Rg（公称400K以上）、地区N（公称600K以上）、桜花賞（公称800K以上）の3レース。従来の2賞を融合した構成に加え、Rgと地区Nでは参加羽数の上位5％以内、桜花賞では上位10％以内という厳しい入賞条件が課される。異なる距離で安定して上位に入る総合力を問う、まさに「究極のレース鳩」を追求するタイトルだ。日本AP賞が「レース鳩の最高賞」と称されるゆえんも、ここにある。

受賞の範囲も、会長賞や総理大臣賞・協会賞杯のような連盟単位ではない。全国から申請された鳩のうち、受賞できるのは上位10羽のみ。各レースの順位を参加羽数で割った「入賞率」を3レース分合計し、その数値が小さい順に順位を決める。

対象レースの参加羽数は毎年延べ10万羽を超えるが、すべての条件を満たし、全国順位を競う段階に進めるのは、例年20羽前後にすぎない。過去には、受賞鳩が10羽に満たなかった年も2度ある。距離を問わず高い競翔能力を発揮する1羽――ゼネラリストを作り上げることが、いかに難しいか。その歴史が物語っている。

令和8年度は、対象レースに延べ11万7514羽が参加。北は青森連盟から西は西九州連盟まで、計23羽が規程をクリアした。近年、受賞の一つの目安となっているのは、合計入賞率10％以内。しかし、今年は2年連続で受賞のボーダーが7％台となり、全国の精鋭が高い水準で競い合った。

成鳩が例年以上に並び立つ中、レースの総合優勝と日本AP賞の二冠を手にしたトリ、総理大臣賞・会長賞と合わせてAP三冠を達成したトリ、さらには至高のレース鳩の称号「スーパーエクセレントピジョン」の認定鳩までもベスト10に名を連ねる。その中で頂点に立ったのが、桜花賞の総合優勝鳩――**平田兄弟鳩舎（関東中部）**作翔の**「24HL01905」**だ。合計入賞率は**「0・03407」**。唯一の3％台を記録し、全国1位に輝いた。

1年目は体調不良で2年目は換羽でエース候補から脱落

埼群連盟では01年以来2羽目。群馬鳩界においては史上初の「日本一のレース鳩」である。能力を可能な限り数値化する平均分速率でトップに輝いたこのエポックメーカーは、24年生まれの成鳩。ただし、その歩みは順風満帆ではなかった。本格的な活躍が期待された25年春は、コンディションを崩し、Rgを最後に出場を見送ったという。回復後は秋レースにも参戦したが、目立った成績を残すには至らなかった。

転機となったのは26年春。地区Nで総合優勝を争い、総合2位に入賞した。前年まで大きな実績のなかったトリが、一躍主役に躍り出る。これもまた、ピジョンスポーツの醍醐味だろう。もっとも、平田兄弟はそれ以前から、安定して帰還する点を評価していた。地区Nの好成績を受け、このトリを総理大臣賞の候補に据えたのである。

そこで、海越えを一度は経験させておこうとGPに参加させた。ところが、期待に反して帰還は2日目の夕方。兄弟をやきもきさせた背景には、換羽の進行があった。レース時点で、主翼の10枚目が伸び始めていたのである。

それに気づいたのは、GPを終えた後だった。桜花賞の持ち寄り1週間前に行った訓練で、10枚目が五分ほどまで伸びているのを確認。そこで初めて、GP出場時の状態にも思い至ったという。

桜花賞の持ち寄り時でも、伸びは六分程度。好成績を期待するには不安が残り、兄弟の期待もほかのトリへと移っていた。GPでは、チップリングの故障さえなければ連盟優勝が見込まれた1羽に加え、その全兄弟が正常に記録され、連盟3位に入賞していたからだ。こうした有力鳩の台頭もあり、地区N総合2位鳩は、本命の座を譲ることになった。

しかし、桜花賞で鳩舎の1番手に帰ってきたのは、ほかならぬそのトリだった。

最初に姿を見つけた弟・雅雄は、地区N総合2位の鳩だとすぐに気づき、驚いた。一方、兄・栄二氏の脳裏には、再び「総理大臣賞」



★取材当日には鳩友たちも同席。この時点で順位こそ確定していなかったものの、お祝いムードに溢れていた。

令和8年度　日本エース
作翔者・平田兄弟鳩舎

埼群連盟史上２羽目、群馬鳩界では

学生時代、それぞれに鳩レースを始めた平田３兄
導入し、埼群連盟を代表する強豪へと成長。98年
本エースピジョン賞(以下、日本ＡＰ賞)」で初の受
日本ＡＰ賞の全国１位に輝いたのである。埼群連盟



作翔者・平田兄弟鳩舎
(関東中部／写真左が栄一氏・右が雅雄氏)のプロフィール

■鳩歴／60年　■レース歴／60年
■鳩舎規模／種鳩 7坪50羽・選手鳩9.5坪100羽
■主力系統／ファンダイク系、ロードホフ系、P・ローザン系、
ヤンセン系、カイパー兄弟系、渡辺CH系
■代表翔歴／日本優秀鳩舎賞２回(02年・26年)、
日本ＡＰ賞２羽(21年・26年)、200K～GN各連盟優勝

の文字が浮かんだという。結果は前述の通り
――連盟唯一の当日帰還による完全総合優
勝。受賞への期待は、一気に膨らんだ。
「とはいえ、連盟1位くらいだと思っていたの
で、来年も使おうと、この鳩を舎外に出して
いたんです。そうしたら、連盟長の野口(憲一)
さんから電話があって、『日本ＡＰ賞に入る
かもしれない』と。21年に受賞したときの経
験から、写真撮影や取材といった段取りは分
かっていたので、翌日には舎外をやめました
ね(笑)」。

日本一のレース鳩は日本ＡＰ賞の全国４位鳩の孫

総理大臣賞の本賞との二冠は叶わなかった
ものの平田兄弟鳩舎にとって２羽目の日本Ａ
Ｐ賞受賞鳩となった「24ＨＬ01905」は、
前回の全国４位鳩の孫だ。この全国４位鳩の
直仔は、鳩友に譲ったり、選手鳩としてレー
スに参加させたりしていたため、実は自鳩舎
にほとんど残っていないという。しかも種鳩
としてあえて残したのは、今回の受賞鳩の母
親だけだった。
「全国４位の直仔は、ほとんどが大柄でした。
でも、この鳩だけは中型だったので、『これは』
と思って残したんです」と雅雄氏は振り返る。
　少なからず彼らの下での活躍が、この日本
ＡＰ賞全国１位だけとのことだが、配合的に
は(全国４位の)父方祖父母となる**「13ＨＬ00371(連盟ＡＰ賞1位)×11ＨＬ09536(地区Ｎ総合優勝)」**のインブリードだ。
この交配からは、今年の八郷・アベレージレー
ス協会賞全国２位が生まれており、活躍をまとめれば「アタリ配合」といって過言ではない。そのため大元の1つであるプロス・ローザンの**〝ド・ナショナル(ブールジュＮ優勝・オルレアンＰ優勝他)〟**がやや色濃くなっているものの、他のラインからは、ヤンセンの**〝ド・019(18回優勝)〟**、フェルホルトの**〝フィーネケ5000(オリンピアード中距離部門代表)〟**、リンデラウフの**〝ワンダーボーイ(エタンプ万羽優勝、オルレアン優勝、エタンプ優勝)〟**、そしてファンダイクの**〝カニバール(ＫＢＤＢ中距離ナショナルＡＰ賞1位)〟**といった世界的スーパーＡＰの血が確認。「ＣＨからＣＨが生まれる」というブラッドスポーツの本質を見事に体現している。それゆえか鳩体は短く、筋骨隆々でありながら軽いという典型的なスピードバードのそれだ。
　さらに注目したいのは、血統書に記された翔歴が、いずれも自鳩舎で積み重ねたものだという点である。世界の銘血を受け継ぎ、実戦でその力を確かめながら、配合と淘汰を重ねてきた。名声に確かな実績を伴わせたその血統は、まさしく「平田兄弟系」と呼ぶにふさわしい。

エポックメーカーがもたらすもう1つの歴史的快挙…？

　このエポックメーカーの活躍もあり、平田兄弟鳩舎は2度目となる日本優秀鳩舎賞に選出。しかも、その成績は全国1位を期待させる好数値だ。栄一氏と雅雄氏のコンビは、全国に名をはせる実力者、飼育規模を縮小した今も、その強さは健在である。とりわけ今年は、杉山弘紀鳩舎(ニュー埼玉東部)の大躍進に刺激を受け、レースに臨んでいたという。
　日本ＡＰ賞に続き、「日本最優秀鳩舎賞」の受賞となれば、協会三大最高賞のうち2賞で日本一に輝くことになる。レース鳩と競翔家の双方で頂点に立つその偉業は、「日本最優秀鳩舎賞」と「ダイヤモンドマーク賞」の同時受賞によって得られる究極の称号――「オリエンタルチャンピオン」にも匹敵しよう。発表は、9月26日の総合表彰式で行われる。平田兄弟鳩舎が、日本鳩レース界に新たな金字塔を打ち立てるのか。その瞬間に注目したい。



全国2位

23KA16745
新井　繁鳩舎
（埼玉連盟・埼玉北辰連合会）

合計入賞率 0.04472

23KA16745
“ニュー白鶴号”
BW　♀　新井 繁鳩舎作翔

26年スーパーエクセレントビジョン認定
令和8年度内閣総理大臣賞・協会賞杯連盟2位

26年埼玉連盟 Rg	427K	7,372羽中	総合185位	入賞率	0.02509
埼玉連盟 地区N	556K	5,238羽中	総合92位	入賞率	0.01756
埼玉連盟 桜花賞	952K	967羽中	総合　2位	入賞率	0.00207

→22KA10851　BC　石田啓司作　最高種鳩
→“ゴールデンハリー” BC ホーイマンス作 娘／**“プリンセスキム”（下記）**
→**“ハリー”**　NL07-2007621　BC　ホーイマンス作翔
09年WHZB長距離ナショナルAP賞1位
“プリクセム”の直仔×“クライネディルク”の娘
→NL13-1395005　BC　ホーイマンス作
“ダヴィンチ”（アプリスNPO優勝／上記“クライネディルク”直系）×**“ハリー”（上記）**の全妹
→**“プリンセスキム”** 15LB09367　B　プリモ・西尾共同作　日暮義一使翔
16年KBDB会長賞全国優勝
→“ゴールデンハリー” NL14-1209901（上記）
→NL14-1209809　B　ホーイマンス作
“デン・ブールジュ”の直系×“ハリー”（上記）の娘
→19KA14942　BC　新井 繁作翔　21年GP700K総合20位他
→15KA27556　BCW　奥住 豊作　**“ド・ジャック”**×
“レーザー・エース”（14年連盟AP賞1位／上記**“クライネ・ディルク”**重近親）
→16KA22252　BC　奥住作
“カオール・ドイヴィン”（カオール4,939羽中優勝）の直仔×
“マリアンヌ”（サンバンサンN優勝）の娘

日本鳩界に新たな超銘鳩誕生 その名は「ニュー白鶴号」

〝CHエースクイン（04年）〟、〝VENUS（24年）〟――。**新井 繁鳩舎（埼玉北辰）**が確立した系統からは、数々の日本AP賞受賞鳩が誕生している。しかし、自鳩舎での受賞は、意外にも昨年が初めてだった。そして今年、「1度受賞すると、2度目も近い」という日本鳩界のジンクスをなぞるように、2年連続の受賞を果たした。前回は使翔者としての栄誉だったが、今回は作出と使翔の両方を手がけ、順位も全国2位へと大きく躍進する。

その栄誉をもたらした**「23KA16745」**は、年間に1羽誕生するかどうかという「スーパーエクセレントビジョン」にも認定された。合計入賞率も、年によっては全国1位に届くほどの好数値である。まさしく〝超銘鳩〟と呼ぶにふさわしい1羽だ。

では、その血統はどうか。意外にも、冒頭の受賞鳩を生んだ〝白鶴系〟ではない。父親は、世界的な銘鳩として知られ、日本でも一大ブームを巻き起こしたホーイマンスの〝ハリー〟を3重に重ねた近親だ。同時に、そのブームのきっかけとなった〝プリンセス・キム〟の直仔であり、またその父である〝ゴールデンハリー〟のインブリードにもなっている。

さらに、コープマンの**〝クライネ・ディルク（ワールドCH若鳩5位）〟**、ファンダイクの**〝デン・ブールジュ（ブールジュN2位）〟**の血も受け継ぐ。〝ハリー〟を含むこれら銘鳩の源流をたどると、〝ランボー〟に行き着き、実に8重にその名が現れる。

一方、母親には、かつて本誌の表紙を飾った**〝ジャック（NPO超長距離ナショナルAP賞1位）〟**をはじめ、コール・デハイデの代表鳩〝カオール・ドイビン〟や〝マリアンヌ〟という〝クランパー〟を系源とする銘血が流れている。加えて、父方にも登場する**〝クライネ・ディルク〟**の血が強く脈打ち、結果受賞鳩自体の近親強度は10以上。ゆえに鳩体もスピードバードを思わせるつくりで、筋肉の質を一字で表すなら「剛」だ。スペシャリストならまだしも、ゼネラリストとしては異端といって過言ではない。そして数多くのCHを輩出してきた新井鳩舎においても異彩を放つ存在――。期待をこめて、この超銘鳩には「ニュー白鶴号」と名づけられた。



全国3位

24KA14964
鈴木周一鳩舎
（埼玉連盟・埼玉中央連合会）

合計入賞率 0.04695

24KA14964
“マシン・スリーS”
BC ♀ 鈴木周一鳩舎作翔

26年埼玉連盟 Rg	446K	7,372羽中	総合 82位	入賞率 0.01112
埼玉連盟 地区N	575K	5,238羽中	総合101位	入賞率 0.01928
埼玉連盟 桜花賞	971K	967羽中	総合 16位	入賞率 0.01655

→21KA18267　BC　松本二郎作
直仔／1000K7位、600K3位、300K7位・9位
→“マシン・サード”　11KA34606　BC 松本作翔
東日本稚内GN総合92位
曾孫／26年東北東ブロック連盟長門GN総合優勝
→06KA26220　BC　松本作　“ラボ”(ブルージュN3位他)の孫
→06KA26119　BC　松本作
“稚内サード”(93年東日本稚内GN総合3位)曾孫×同娘
→14LH01106　DCW　米倉作
→05LH01350　米倉作　“スーパーベン”の直仔
→09LH08880　米倉作　“スーパーベン”の直仔×同娘
→20KA30098　B　鈴木周一作翔　200K優勝、GP700K4位
全兄弟／200K、900K各優勝
→13KA05992　B　鈴木作翔　モイレマン系
全兄弟／800K優勝2羽
→19KA06514　B　中尾　剛作　ヨス・トーネ系
ジャパンカップ優勝×1100K優勝

協会三大最高賞という“幸せ”を運んだトリ

全国3位にも、埼玉連盟の精鋭が名を連ねた。**鈴木周一鳩舎（埼玉中央）**作翔の**「24KA14964」**である。合計入賞率は4％台。年によっては全国1位にも届く好数値での受賞だ。

鈴木鳩舎は今年、「日本優秀鳩舎賞」と「全日本ゼネラルCH賞」にも選出（30頁参照）。この2賞の獲得に最も大きく貢献したのも、**「24KA14964」**である。羽色こそB（青）ではないが、鈴木鳩舎にとっては、まさに「幸せを運ぶトリ」となった。

同鳩舎の最高傑作とも呼べるこの1羽を生んだのは、地元で活躍を重ねてきた血統だ。しかも、自鳩舎のレースでも、その力を確かめてきた実績あるラインである。

父親は、鈴木鳩舎の躍進のきっかけをつくったとされる、松本二郎鳩舎（埼玉北辰）の作出鳩。ローセンスの〝ラボ〟の血を引く同鳩舎の代表CH〝マシンサード〟と、**バルセロナN優勝・2位・3位**という傑出した実績を持つ〝スーパーベン〟の血を融合した1羽だ。

この組み合わせからは、帰還そのものが難しい東北東ブロック連盟のGNでも、総合優勝鳩が誕生している（26年）。鈴木鳩舎での成果も合わせれば、両者の血の相性のよさがうかがえよう。

一方、母親は、鈴木鳩舎の主軸をなすモイレマン系に、鳩友・中尾剛鳩舎のヨス・トーネ系CHの血を組み合わせて作出された。父母の双方に、実践で熟成された確かな血が息づいている。

協会三大最高賞のすべてを受賞し、過去最高のシーズンを迎えた鈴木鳩舎。こうした栄誉をつかむには、実力に加え、運も欠かせない。ブラッドスポーツである鳩レースの世界では、その運さえも次代へ受け継がれるといわれる。

今年の大躍進を象徴する**「24KA14964」**。今度はその血を通じて、新たな幸せを運んでくれるかもしれない。



全国4位

25SA02292
永谷準一鳩舎
（東海連盟・東海連合会）

合計入賞率 0.07020

25SA02292
“トリプルエース”
B ♀ 永谷準一鳩舎作翔

令和8年度内閣総理大臣賞・
協会賞杯連盟1位、会長賞

26年東海連盟 Rg	411K	588羽中	総合26位	入賞率	0.04422
東海連盟 地区N	613K	433羽中	総合 6位	入賞率	0.01386
東海連盟 桜花賞	769K	165羽中	総合 2位	入賞率	0.01212

- 20SA03777 B 坪井和利作
  - 18SA11112 B 坪井作 “スーパーブリーダー”3重近親
    - **16SA12014** B 坪井作翔 **17年KBDB会長賞連盟1位**
      父／“CHキング”（09年余市CH総合優勝）×
      “ナショナル”（06年地区N総合優勝／“CHキング”の異母姉）
    - “グランプリ号” 09SA13446 BC 坪井作翔
      10年GP総合優勝 父／“モンローII”の直仔×“ナショナル”（上記）
  - B12-4163529 B PIPAエリートセンター作
    - B11-4097009 “ラッキー848”（**ドリームカップル**の孫）×同孫
    - “ミスブールジュ” B10-4101361 ブールジュN15位 プロアP4位他
      “フレディ”の直仔×**“リモージュ”**（**ドリームカップル**の直仔）の娘
- 20SA03346 B 永谷準一作 “デンドーCH”の重近親
  異父姉の娘／17年余市CH総合優勝
  - 19SA04888 B 永谷作 全兄弟／21年春Rg総合優勝
    - 18SA06700 BC 永谷作（GN総合11位2回×10年沼田GN総合優勝）×
      “グランドギャル5号”（17年沼田GN唯一羽帰り総合優勝）
    - 15SA00187 BW 永谷作翔 17年余市CH総合2位
  - 09SA12019 BC 永谷作翔 14年沼田GN総合優勝
    父／05年沼田GN連盟優勝×“デンドーCH”（04年余市CH総合優勝）

2人の最強鳩舎の融合で歴史的AP三冠鳩爆誕！

巨匠・岩田誠三鳩舎を筆頭に、数々の全国タイトルホルダーを輩出してきた東海連盟。「西の横綱」とも称される名門である。強豪同士がしのぎを削り、上位入賞さえ容易ではないこの連盟に、会長賞・総理大臣賞・日本AP賞の三冠鳩が誕生した。東海連盟では、史上初の可能性もある快挙だ。

作出・使翔を手がけたのは、**永谷準一鳩舎（東海）**である。Rg以上のレースで連盟優勝7回を達成した鳩舎に贈られる、東海連盟最高の栄誉「鳩道殿堂賞」を受賞し、日本優秀鳩舎賞でも全国2位と6位に名を連ねた、屈指の実力鳩舎だ。日本AP賞の受賞鳩も過去に2羽送り出しており、3羽目となる今回は、自鳩舎の最高位を更新する全国4位に輝いた。

対象となる3レースすべてでシングル入賞を果たした成績も、その実力を鮮明に示している。血統をたどれば、自身の名声を築いてきたCHたちの名が並び、その母方の源流にあるのは、純ヘンドリックスの基礎カップルだ。その血を近親交配で重ねながら、羽色も元のDCから、今回の受賞鳩のような「きれいなB」へと変えていくことを目指し、その積み重ねによって、現在の主力血統が形づくられたそうだ。

一方、父親は、鳩友であり好敵手でもあった坪井和利鳩舎の作出鳩である。坪井氏はすでに競翔から退いているが、日本優秀鳩舎賞などの受賞歴を誇る実力者だった。この父親も、同鳩舎の躍進を支えた主力血統を受け継いでいる。

永谷鳩舎の「ヘンドリックス系」、坪井鳩舎をクラウン賞へと導いた「スーパーブリーダー（ヤンセン系）」、そしてサブロンの**“アルベルト”×“ポーラ”のドリームカップル**の3つの近親を組み合わせて生まれたのが、受賞鳩**「25SA02292」**というわけだ。親超えの法則――絶種強勢の配合式が使われていたとあって、然るべきエポックメーカーの誕生だったのかもしれない。



全国5位

24HF03066
菅谷真澄鳩舎
（東坂東連盟・真岡連合会）

合計入賞率 0.07230

24HF03066
“カイトW6”（ダブル）
BC ♂ 菅谷真澄鳩舎作翔

令和8年度内閣総理大臣賞・
協会賞杯連盟1位

26年東坂東連盟 Rg	481K	2,241羽中	総合95位	入賞率	0.04239
東坂東連盟 地区N	683K	1,237羽中	総合10位	入賞率	0.00808
東坂東連盟 桜花賞	890K	229羽中	総合 5位	入賞率	0.02183

全兄弟／200K優勝、坂東三地区500K総合2位、
東日本稚内GN連盟5位
→15HF06090 BCW 菅谷真澄作
全兄弟の直仔／26年桜花賞当日1羽帰り総合優勝
→07HF06112 BC 菅谷作翔
08年地区N700K総合15位・東地区当日1羽帰り優勝
→03HF34021 BC 菊池作 父／“デンベック”×“マキシマ”
→04HF22012 DCW 菅谷作 ファンブリアーナ系
→14HF14310 BC 水沼満一作
東日本稚内GN坂東野州連盟2位×同・連盟優勝
直仔／18年坂東三地区GP総合優勝
→14HF14302 BC 水沼満一作
→01JK11132 BC 笠原通孝作 ヤンセン系
孫／坂東三地区500K総合優勝
→08HF02176 BC 広瀬富男作 “プルト”の直仔×同・孫

アタリ配合の連鎖がもたらしたレース鳩の最高賞

名門・東坂東連盟の中でも、屈指の強豪が集う**真岡連合会**。そこに所属する**菅谷真澄鳩舎**は、強敵たちと切磋琢磨しながら、上位入賞を重ねてきた。とりわけ坂東三地区のレースでは、500KとGPで総合優勝。今年は桜花賞を〝当日唯1羽帰り〟で制し、その実力を示している。さらに連盟ベストテンに2度名を連ねたAPが誕生。その**「24HF03066」**が、総理大臣賞・協会賞杯1位に加え、日本AP賞でも全国5位に輝いたのである。同鳩舎にとって、協会三大最高賞の受賞は初めて。競翔の歩みに、大きな節目を刻む1羽となった。

その父親は、菅谷鳩舎が作出・使翔した地区N東地区優勝鳩の直仔だ。血統は、〝ミスターサンバンサン〟の異名を持つ渡辺 正鳩舎の**「〝デンベック〟×〝マキシマ〟」**のラインに連なる。

このペアからは、全国各地で活躍鳩が誕生。秋季レースで3回連続総合優勝（兵庫県連盟）を果たした歴史的銘鳩〝ニック・パルフェ〟も、その1羽だ。数あるサンバンサンチャンプ同士の配合の中でも、黄金の如く輝かしい実績を誇る組み合わせである。

また、GNの名手として群馬鳩界に名をはせる大田 茂鳩舎（群馬）の「1×2」配合も、菅谷鳩舎の主力をなす血統の一つだ。冒頭で触れたGP総合優勝鳩に加え、今年の桜花賞総合優勝鳩も、この配合から生まれている。

さらに、**「24HF03066」**の全兄弟――（受賞鳩の）母親であるヤンセンの近親鳩との交配からも、活躍鳩が続々と誕生。型としてはハイブリッドであるものの、アタリ配合の連鎖が起きていることが伺える。ゆえにさらなる成功を呼ぶ可能性は大！　日本AP賞の誕生は、菅谷鳩舎がさらなる高みへと進む、その幕開けとなるかもしれない。



全国6位

24EE05162
勝俣惇夫鳩舎
（あさひ連盟・小田原連合会）

合計入賞率 0.07340

24EE05162
“サカイ号”
BC ♀　境 宏鳩舎作
勝俣惇夫鳩舎使翔
令和8年度内閣総理大臣賞・
協会賞杯連盟1位

26年あさひ連盟 Rg	444K	1,139羽中	総合14位	入賞率	0.01229
あさひ連盟 地区N	633K	667羽中	総合 9位	入賞率	0.01349
あさひ連盟 桜花賞	1040K	105羽中	総合 5位	入賞率	0.04762

→16EE09652　B　湯川　格作翔　17年GP連盟46位
直仔／23年シルバーエクセレントピジョン
→14EM02642　B　楯岡 薫作
→11EM05577　B　楯岡作翔　13年GP当日唯1羽帰り総合優勝
ファンブリアーナ・アールデン各系×ときわ・ファンデウェーゲン各系
→10EM04436　BC　楯岡作翔　12年東日本CH・E地区優勝
協会作（スカーラーケンス、コール・デハイデ各系）×
フーベン父子・エンゲルス・ファンブリアーナ各系
→12EE05930　B　湯川作翔　13年桜花賞総合6位
29017（大津東雲系）の重近親　全姉／12年GP総合優勝
→22EE10321　BCW　境　宏作翔　桜花賞1000K後日
→19EE11125　BC　境作　200K2位、300K5位
グロンドラース系×17年東日本CH・E地区3位
→17EE06523　BCW　境作翔　GP連盟11位
“プルト”の直系×天元系

ラストシーズンに誕生した鳩友との絆を示す最高傑作

勝俣惇夫鳩舎（小田原）は、レース歴50年を誇るベテランである。東日本CHでE地区優勝を果たすなど、あさひ連盟屈指の実力者として知られてきた。そして今年、全国の栄誉をもたらす1羽が誕生する。地区Nと桜花賞で総合シングル入賞を果たした「24EM05162」だ。総理大臣賞・協会賞杯の連盟1位に加え、日本AP賞でも全国6位に輝く。後者は、あさひ連盟で18年ぶり、史上2羽目となる快挙だ。

殊勲の1羽を作出したのは、鳩友にしてこちらも実力派・境 宏氏（あしがら）である。勝俣氏は、自鳩舎の主力血統を鳩友に託し、そこから生まれた鳩を再び迎え入れる方法を実践してきた。今回の受賞鳩も、そうした交流から生まれた1羽である。

母方の東日本CH・E地区3位鳩（ファンダイク系・ファンデウェーゲン系）がまさにそれ。またヤンセン最後の代表鳩“ド・クランパー”の異母兄に当たる“プルト”、髙橋宏之鳩舎が形成した「天元系（オペル系・サウスウェル系・岩田系）の血――稚内1400Kを含む長距離レースで4代連続総合優勝を果たしたとされる銘系が加わり、母親を形成している。

一方の父親は、シルバーエクセレントピジョン認定鳩も送り出した実績ある種鳩だ。血統は、銘系「ときわ系」の血を引く楯岡 薫鳩舎の総合優勝ラインに、湯川 格鳩舎の基礎鳩“29017（大津東雲系）”を組み合わせたもの。神奈川鳩界で実績を重ねてきた血が、その土台をなしている。

父母で異なる血統を組み合わせた配合だが、その成果は受賞鳩だけにとどまらない。同腹も安定した成績を残し、桜花賞には期待のエースとして送り出されていた。発情の影響があったとみられ、惜しくも未帰還となったものの、それまでの実績は、この配合の可能性を感じさせるものだった。

キャリア最高のタイトルを手にした勝俣氏だが病を患い、半世紀に及ぶ鳩レース生活に幕を下ろした。日本AP賞受賞鳩は、地元の鳩友へと託されたという。18年ぶりに連盟へ栄誉をもたらした「24EM05162」。勝俣氏のフィナーレを飾った最高CHが、今度は“あさひの宝”として、次代の活躍鳩へとその血をつないでいくことを期待したい。



全国7位

24BA09428
小笠原信悦鳩舎
（青森連盟・青森中央連合会）

合計入賞率 0.07623

24BA09428
“のぞみAP428”
BC ♀ 小笠原信悦鳩舎作翔

令和8年度内閣総理大臣賞・
協会賞杯連盟2位

26年青森連盟 Rg	488K	1,995羽中	総合82位	入賞率	0.04110
青森連盟 地区N	619K	1,068羽中	総合 8位	入賞率	0.00749
青森連盟 桜花賞	1007K	398羽中	総合11位	入賞率	0.02764

- “のぞみ468” 22BA07468 BC 小笠原信悦作翔
  22年秋Rg400K総合6位・津軽地区優勝
  - “のぞみ614” 21BA00614 PB 小笠原作 基礎鳩
    - 08BA04765 BC 古川 正作
      “スーパーリック”×萩1100K総合6位
    - 10DA52101 B 古川作
      “かしま88”（“グランプリ・リック”の曾孫）の娘
  - 18BA06699 BC 石岡要一作
    後藤彰三作（“サハリンキッド”の直仔×四代目基礎鳩の娘）×“スーパー野母崎”の娘
- 19BA14320 BC 小笠原信悦作翔
  23年桜花賞総合60位
  - 08BA04765（上記）
  - 17BA07594 BC 細川和彦作
    “あきもとGNクィーン（97年下関GN1158K総合優勝）の孫×“かしま88”（上記）の孫

青森連盟最多受賞！1300Kの銘血が紡ぐザ・セカンド！

小笠原信悦鳩舎（青森中央）は、近年、青森連盟で頭角を現している新進気鋭のレースマンだ。とりわけAPの作出・育成に優れ、24年には連盟で2人目となる日本AP賞の受賞を達成。その会心作は、東北北部ブロック連盟の最高位となる全国3位に輝き、地元鳩界に驚きと勇気をもたらしたことは、記憶に新しい。

その後も2年連続で総理大臣賞のベスト3に入賞。うち今年の受賞鳩は日本AP賞の規程も満たし、全国7位に選出された。

青森連盟最多となる2度目の受賞をもたらした「24BA09428」は、前回の全国3位鳩とは異なる血統構成を持つ。血量の8分の5を占めるのは、連盟長・古川 正氏（北都）が築いた「北王系」だ。その代表CH〝スーパーリック（00年スーパー九州佐世保1300K連盟優勝／〝グランプリ・リック〟の孫）〟の「曾孫×孫」による、いわゆる「奇跡の血量」を狙った配合である。

同時に、北王系の代表種鳩〝かしま88〟のインブリードでもあり、さらに近年の基礎をなす〝グランプリ・リック（87年浜田GP総合2位）〟までさかのぼると、その血は幾重にも重なる。古川鳩舎のこの主力血統は、1300Kレースを3年連続で制しており今回、日本AP賞の受賞鳩も送り出したことで、系統としてさらなる極みを示したといえよう。

ほかにも、野母崎1318Kを制した〝スーパー野母崎〟や〝サハリンキッド（03年サハリンレース総合優勝）〟、1200K地帯において下関GNを制した〝あきもとGNクィーン〟の血が流れる。さらに、数々のGN総合シングル入賞鳩を送り出してきた後藤彰三鳩舎（秋田）の基礎鳩ラインも受け継ぎ、前回とは対照的に、超長距離の実績を凝縮した1羽といえよう。

さて2年前の協会三天AP賞座談会で小笠原鳩舎は、初受賞が偶然ではないことを証明するため、もう一度獲得したいと熱く語っていた。その言葉を、わずか2年で現実のものにしたのである。有言実行で手にした栄光であるがゆえ、その喜びは、全国デビューを果たした前回をも上回るものかもしれない。

全国8位

25LS00826
阿部晴雄鳩舎
（千葉南連盟・木更津南連合会）

合計入賞率 0.07741



25LS00826
“トリプルレディ”
B ♀ 阿部晴雄鳩舎作翔

令和8年度内閣総理大臣賞・
協会賞杯連盟1位、会長賞

26年千葉南連盟 Rg	509K	450羽中	総合 9位	入賞率	0.02000
千葉南連盟 地区N	606K	270羽中	総合 2位	入賞率	0.00741
千葉南連盟 桜花賞	1020K	60羽中	総合 3位	入賞率	0.05000

→22LS05333 B 阿部晴雄 作
→B11-6025438 B ロードホフ 作
→B05-6381242 ドールダン優勝（ホフケンス系）×ロウ・ヴォウターズ系
→B06-6201022 **“デン31”**の孫×610（**スーパーカップル**の娘）の娘
全妹の孫／**23年会長賞全国1位**
→18KA24304 BW 奥住 豊 作 全兄弟／14年JC埼玉連盟7位
→10KA08655 BC 奥住・新井 繁共同作
“エンデバージャパン”（07年JC総合4位）×
“白鶴カップクイン”（09年総理大臣賞南関東地区1位）
→08KA55645 B 奥住作翔
08年秋埼玉連盟Rg中地区14位 “ル26”の直系
→21LS05858 BC 阿部晴雄 作
→**13MA08576** BC 髙井・森野達男共同 作
15年東京東連盟Rg総合優勝・**アジア鳩協聯盟会長賞東京地区1位**
東日本CH1000K13位 08年桜花賞総合優勝の直仔×“超天使”の孫
→18LS02274 BC 阿部 作翔 20年春Rg総合優勝
B11-6025438（上記）の娘

節目の年に誕生した連盟史上初の協会AP賞三冠！

阿部晴雄氏（木更津南）は、もともと川崎連合会で鳩レースに取り組んでいた。仕事からの引退を機に千葉県君津市へ移り再開。理想の環境を得て、意欲も新たにピジョンスポーツに打ち込んできた。そして再開から10年の節目となる今年、大きな飛躍を遂げた。

Rg、地区Nで連続総合優勝を果たしただけでなく、「会長賞」と「総理大臣賞」をともに受賞する1羽も誕生した。それが、日本AP賞全国8位に輝いた「25LS00826」である。千葉南連盟では16年ぶり、史上2羽目となる日本AP賞受賞鳩であり、協会AP三冠の達成は連盟史上初。対象となる3レースすべてで総合シングル入賞を果たした翔歴も、距離を問わず上位を争うゼネラリストの理想像を示している。

この歴史的な1羽は、再開時にトレードし、自身初の総合優勝をもたらすなど、阿部鳩舎において基礎鳩というべき「B11-6025438」の近親（直仔×孫）配合で作られた1羽だ。このロードホフ作は、日本AP賞や「会長賞全国1位（23年）」を生み出し、同系統のブームに一役買ったスーパーカップル「**B90-64712 17（ホフケンス系）×B89-6366758（ホフケンス系・ヤンセン系）**」の血が流れている。

阿部氏は以前から輸入鳩に深い関心を寄せ、時には流行のきっかけをつくるほど、その探究に情熱を注いできた。この基礎鳩との出会いも、長年培ってきた選鳩眼が引き寄せたものだったのかもしれない。

もっとも、阿部氏にとって何よりうれしかったのは、鳩友・森野達男氏が遺した鳩の血も受け継いでいたことだった。今回の三冠鳩は、その彼が生前よく口にしていた「1000Kで必ず帰ってくるタイプ」に当てはまる1羽だった。その言葉が後押しとなり、迷うことなく桜花賞へ送り出すことができたという。

さて阿部鳩舎は2年前に大病を患い、今も治療を続けている。感慨深いであろうこの度の最高賞初受賞が、病に立ち向かう大きな活力となることを願いたい。



全国9位

23KA16417
船川勝信鳩舎
（埼玉連盟・埼玉連合会）

合計入賞率 0.07761

23KA16417
“ストロングレディⅡ”
BC ♀ 船川勝信鳩舎作翔

26年埼玉連盟 Rg	433K	7,372羽中	総合 47位	入賞率	0.00638
埼玉連盟 地区N	563K	5,238羽中	総合 86位	入賞率	0.01642
埼玉連盟 桜花賞	959K	967羽中	総合 53位	入賞率	0.05481

- “エキスプレス38号”
  - 16KA45038　BC　谷澤六雄作　川又勝利使翔
  - 17年ジャパンカップ総合11位
  - 14KA19482　BC　谷澤作　父／“フォーチュン”×“サハリンキッド”
    - 異母兄弟／19年八郷・オリエンタルカップ優勝
    - 11KA15151　BC　谷澤作
- 19HA13880　BC　松浦邦彦作
  - 全姉／19年東日本稚内GN総合7位・8位
  - 全妹の娘／23年東日本稚内GN総合優勝
    - 13HS01198　RC　栗原明則作　松浦使翔
      - 14年東日本稚内GN当日総合4位
      - “ド・バルセロナ”（バルセロナN優勝）の直仔×
      - “リバウド”（KBDB超長距離ナショナルAP賞2位）の娘
    - “JCドリーム763”　12HB01763　B　松浦作翔
      - 13年ジャパンカップ当日総合優勝
      - “ミス・バルセロナ”の近親（孫×孫）の娘

長距離血統の塊で誕生した2羽目の日本AP賞！

船川勝信鳩舎（埼玉）は、短中距離のスペシャリストとして知られている。日本鳩界でも最大規模を誇る埼玉連盟で、少数精鋭ながら600Kと地区Nの総合優勝を達成。19年には、このカテゴリーの最高峰ともいえる「会長賞全国1位」に輝いた。

この受賞が、同鳩舎にとって大きな転機となる。協会三大AP賞の座談会で交わされた議論に刺激を受け、日本AP賞という新たな目標を見いだしたのである。それからわずか2年後の21年、早くも初受賞。前述の会長賞全国1位に流れるガビー・ファンデナベールの源鳩“グライネン”の血での成果だった。

そして今年、船川鳩舎作翔の「23KA16417」が、日本AP賞全国9位に選出され、2度目の受賞を飾った。今年で3歳を迎えたこの1羽は、25年の地区Nでも5%以内に入賞しており、シルバーエクセレントビジョンの認定資格をクリア。中距離のスペシャリストらしい作品であるが、その血統は前回の受賞鳩とは趣を異にする。

父親は谷澤六雄鳩舎の作出鳩で、初山別から放鳩されていた時代のジャパンカップで総合11位に入賞したCHだ。血統には今回の日本AP賞全国7位に流れる“フォーチュン（07年東日本稚内GN総合優勝）”と“サハリンキッド（03年サハリン総合優勝）”の名が見られるほか、プリモロフト作のトリが2羽も含まれる。当時、同ロフトがGNを志向していたことを踏まえると、こちらも長距離で実績を重ねた系統につながる可能性が高い。

一方、母親は松浦邦彦鳩舎において「対東日本稚内GN」の超アタリ配合だ。血統には、同レースで活躍鳩を送り出している“ド・バルセロナ（バルセロナ1200KZLU優勝）”や“ミス・バルセロナ（バルセロナN優勝）”の名も並び、後述におけるエビデンスはバッチリ――父母を通じて長距離系の血が大部分を占めるだけに、船川鳩舎自身も、桜花賞でこそ真価を発揮してくれると期待していたという。ところが5%以上の入賞率となり、受賞は無理だと申請すら迷うほどあきらめていた…。

“望外の受賞”をもたらしたこの1羽は中距離レースでピークを迎えている。2羽目の日本AP賞はブラッドスポーツにおける異端児による成果であった。

全国10位

18BA13504
出戸 均鳩舎
（青森連盟・青森連合会）

合計入賞率 0.07963



18BA13504(24年生)
B ♀ 出戸 均鳩舎作翔
令和8年度会長賞

26年青森連盟 Rg	508K	1,995羽中	総合48位	入賞率	0.02406
青森連盟 地区N	645K	1,068羽中	総合 3位	入賞率	0.00281
青森連盟 桜花賞	1042K	398羽中	総合21位	入賞率	0.05276

- 18BA14479 BC 出戸 均作翔 18年秋CH記録
  - 16BA07682 B 出戸作翔
    16年秋500K記録 ヤンセン系×モスキート系
  - 17BA03736 BC 出戸作翔 17年秋500K記録
    母／07年秋500K総合優勝
- 21LK36645 S 飯田久俊作
  - 20LK04364 S 飯田作
    絵鳩系×（東日本稚内GN総合12位×同レース総合7位）
  - 18ES04610 B 石黒作
    - 16ES01701 B 石黒作 02LK13381×08LK15486（2羽とも下記）
    - 08LK15486 B 飯田作
      - 02LK13381 BC 石津作 絵鳩系
        全兄弟／03年千葉東連盟Rg総合優勝
      - 04LK01049 BC 飯田作翔
        05年千葉TV杯600K総合優勝
        02LK13381（上記）×**02年総理大臣賞レース全国優勝**
        孫／**22年ゴールドエクセレントピジョン**

総理大臣賞の血から誕生！ しかし待っていたのは―

レース歴50年、総合優勝11回――。**出戸 均鳩舎（青森）**は、長年にわたり第一線で活躍してきた強豪だ。連合会長として組織を支えながら、自らもレースで実績を重ねる。その姿は、まさに「役員たるものレースマンたれ」を体現している。

そして今年、「**18BA13504**」が日本AP賞に選出され、自身に初の協会最高賞をもたらした。しかも会長賞との二冠である。成鳩とはいえこれほどの実績があれば、種鳩として残すことが正道であろう。それでも出戸鳩舎は、実距離1000Kを超える桜花賞へと送り出した。その決断に、勝負師としての気概がうかがえる。

ただし、その挑戦を支える根拠は、血統にヒントが隠されていた。父方には、中距離や秋の若鳩レースでの実績が並ぶ一方、飯田久俊鳩舎（東総）作の母親は、中距離の総合優勝鳩につながるとともに、東日本稚内GNで実績を残した2羽のCHの血も受け継いでいる。

さらに前述の1羽――600K総合優勝鳩を通じて、内閣総理大臣賞レース全国優勝の〝小泉クィーン〟の血が確認できるだけで3回（東日本稚内GN総合7位も直系）絡んでいる。さらに同筋から、「ゴールドエクセレントピジョン」の認定鳩が誕生。これらはこの度の成果におけるエビデンスとなるはずだ。APの作出を理想とする飯田鳩舎も、出戸鳩舎での受賞を心から喜んでいる。

しかし、この栄誉には、悲しい別れが伴った。「**18BA13504**」は、最終レースを翔破してから約1か月後に体調を崩し、息を引き取ったのである。今頁の構成が他と異なっているのは、そうした事情がある。

半世紀の競翔人生に、かつてない栄誉をもたらした1羽。その喪失に対する出戸氏の無念は、察するに余りある。それでも、会長賞と日本AP賞をともに手にした翔跡が色あせることはない。「**18BA13504**」が示した血統の可能性が、いつの日か、新たな受賞鳩の誕生へとつながることを願いたい。